学生の社会的活動報告

『森田人（もりたびと）』
～住民参加によるコミュニティトラベルガイドブック～

生活科学学科 生活デザイン専攻 2回生　佐藤 茉優　長谷川 泰可

私たちは卒業制作として、コミュニティトラベルガイドブック『森田人』を制作しました。このガイドブックは、筧裕介さんら（issue+design）が始めた人と人とをつなぐガイドブックで、地域活性化のツールの1つです。昨年の卒業生が『森田人』に取り組みましたが、今回は森田住民の方にも参加していただくこと、質量ともに充実させて本として出版することで、地域活性化につなげたいという想いで取り組みました。

「森田人」表紙

制作手順としては、まず、地元住民の方に集まってもらい、『森田人』候補者の発掘、絞り込みのワークショップ（延べ45人参加）を行いました。そして、地元住民6人を交えた編集チームを結成し、取材・撮影もお願いしました。その取材シートをもとに記事を作成し、紙面デザイン、編集、校正を行い、B6版88ページの冊子を作り上げました。

卒業制作展期間中には『森田人』発行記念イベントを行いました。イベント内容は、『森田人』の掲載者や編集チームの方など携わっていただいた方々によるパネルディスカッションで、『森田人』の意義と今後の活用方策、展開の可能性について意見を交わしました。

この作品は2人だけの力では出来上がらなかった作品なので、協力してくださった方に感謝の気持ちでいっぱいです、この作品が森田の活性化に繋がることを願っています。

坂井市まちづくり協議会のオリジナルキャラクター制作

生活科学学科 生活デザイン専攻 2回生　廣部 聖子

坂井市の事業で市内13のまちづくり協議会（まち協）のオリジナルキャラクター制作に取り組みました。生活デザイン専攻の2回生7人がリーダーとして、各地区の特徴を伺い、どのようなデザインにするのか会議を重ねました。その会議から生活デザイン専攻全体でキャラクターのラフスケッチを提案しました。その50以上の中のから、リーダーと各地域の方で案を絞り、さらに要望を加えたキャラクターを完成させました。初回のキックオフ会議から約半年間の長い活動だったので、キャラクターが出来上がったときの達成感はとても大きかったです。

最後の完成発表会では、坂井市役所の担当職員の方や、今までお世話になった各まち協の方から「ありがとう」「積極的に使っていく」など嬉しいお言葉を頂きました。大変なことも多かったけれど、この活動を頑張って良かったと思いました。またこの活動を通して、自分が知らない地域とたくさんの人に関わり、普段の短大生活では経験できない交流をすることができました。私は7人のリーダーの内の一人として、他の学生のデザインを取りまとめ、良い部分を活かして、先方の意向を取り入れながら仕上げることができました。自分たちが制作したキャラクターが、今後地域を盛り上げる活動にどんどん使われていってほしいと思いました。

今回大変お世話になった、坂井市役所の職員の方、各まち協の皆さん、西畑先生、専攻の学生の皆さん本当にありがとうございました。

じんあいこどものくに

幼児教育学科

日時：平成29年10月14（土） 9:30〜16:00
会場：仁愛女子短期大学　E館・C館

幼児教育学科では、毎年大学祭において子ども向けのアトラクションを集めた「じんあいこどものくに」と題する企画を催しています。この企画は、学生が主体となって子どもたちが楽しめる遊び場を企画・準備・実践する学びの機会として位置づけられています。ここでは、今年度の取り組みについて報告します。

実施に当たっては、まず4月に行なわれた各クラスのミーティングアワーにおいて、企画案を出したり、実行委員を決めることから始めました。そして、4月、5月、7月に合計3回の実行委員会を開催しました。第1回の会議では、各クラスの実行委員からクラス代表を決めるとともに、委員長を2回生から1名、副委員長を2回生から1名、1回生から1名選出しました。また、役割分担の決定、企画内容案や場所の調整を行いました。第2回の会議では、引き続き企画内容の調整を行ないました。第3回の会議では、場所の調整を行ない、昨年同様のE館だけでは場所が不足するとして、C館の1教室を追加で使用することにしました。

準備は、大学祭前日午後からクラスごとに行いました。これは、各教室の場をもとに、様々な材料を元に試行錯誤せざるをえず、同時に屋台やサークル等他企画と関わる学生もいて、例年かなり時間がかかります。そのような中、スタンプラリーの担当グループは、前日準備だけでは間に合わないとして、事前に余裕をもって準備を行なっていました。

大学祭当日は、多くの親子連れに来場いただき盛況でした。来場者数は、子ども219名、大人135名とほぼ例年通りでした。幼児教育学科の学生は、将来保育士を目指すだけあって、子どもに笑顔で丁寧に接している姿が印象的でした。

全体を統括する実行委員会に関わった立場から、いくつか感想を述べたいと思います。上述しましたように、クラスごとの企画における学生と子どもたちのかかわりは見ていてとても気持ちの良い物でした。また、実行委員はそれぞれの役割を責任をもって果たしていたと思います。ただ、役割分担は果たしていたものの、実行委員会全体の役割ごと、クラスごとの連携をもった柔軟な協働への意識は希薄であったのではないかと思いました。片付けた後、反省会を設けたほうが良かったかもしれません。また、他の教員からは、受付を建物内に設けたほうがわかりやすかったのではないか、C館は場所がわかりにくかったのではないか、今回は迷路のようなものが多く保護者の負担が大きかったのではないかなどの意見が聞かれました。

学生にとっては、企画・準備・実践する学びの機会として、大変有意義な企画であると考えます。次年度は今回の反省を元にさらに充実した「じんあいこどものくに」が実施されることを願います。　（文責：重村幹夫）

ネパールでの活動を通してできた目標

生活科学学科 生活情報専攻 1回生　小川 日子

私たち生活情報専攻の5名は9日間日本を離れ、ネパールでボランティア活動をした。私たちの役割はネパールに支援物資を届けること、先輩方が集めた義援金を渡すこと、ネパール山岳地帯にあるラムチェ村で小学生に日本語や日本の文化を教えることだ。メンバーは澤崎先生と2回生の先輩2人、1回生の私を含めた3人と京都でデザインについて学んでいる田中さんの7人だった。

私たち1回生が特に力を入れたのはラムチェ村での授業だった。先生から、ネパールへボランティアに行き、そこで日本について授業をすると聞いてから私たちはずっと授業内容について考えていた。先生からいただいたネパールの学校事情についての資料には、「ネパールでは詰め込み授業で美術や音楽、体育などはほとんど無い」と書かれていた。このことから私たちは、ただ一方的に情報を伝えるだけではなく子供たち参加型の授業にしようと考えた。たくさん案が出たが、最終的に決まったのは五十音表を使ってひらがなを教えることと、日本の文化を体験してもらうこととして書道をするというものだった。書道は私の特技でもあるため、積極的に意見を出すことができた。授業の流れや必要なものなどネパールに行くまでにたくさんの準備をした。

私たちは、1日かけてネパールでお世話になる銀杏旅館に着いた。銀杏旅館に着くまでにたくさんの初めての体験があった。そもそも海外に行くことが初めてだった。初めての羽田空港、初めての海外、初めて8時間以上も飛行機に乗って英語で話しかけられたり、初めて車が4、5台並んで走っていたりするのを見たりした。たくさんの初めてが一度にやってきて頭の中が混乱するのではないかと思ったが、意外にも冷静に対応できた。

銀杏旅館では日本人で支援活動を行っている筋田さん、ネパール人のミナさんをはじめ、たくさんの人たちにお世話になった。ミナ

さんの弟のパンネさんにはネパールにいる間ずっと車の運転をしてもらいお世話になった。ネパールの交通事情と日本の交通事情は全く違い、ネパールでは信号はほとんど見なかったし、車線はあってないようなものだった。道は都心から離れるほど整備されていない状況だった。発展途上国ではよくある光景らしい。それを実際に体感できてとても嬉しかった。

ラムチェ村に着くとたくさんの子供たちが迎えてくれた。子供たちはみんなかわいくていつも笑顔で、言葉が通じなくても一緒にいるだけでとても楽しかった。周りの山を見渡せる大きな岩の上でみんなが集まって歌を歌ったことは一生忘れられない。ラムチェ村に到着した次の日、小学校で授業をした。たくさん準備をして、前日も銀杏旅館でミナさんや先輩たちと話し合って臨んだ授業は決して完璧とは言えない出来だった。人に何かを教えたり、伝えたりするのがどれだけ難しいことか痛感できた。村で子供たちと遊ぶ時にはそれほど必要性を感じなかった言葉が授業をしたことによって、とても大切なものだということに気づくことができた。

ラムチェ村から銀杏旅館に帰ってきた夜、翌日ネパール全土でストライキ（市街地の店舗と交通機関が全て閉鎖）が起きることを知らされた。日本で、しかも私の暮らしている福井ではストライキが起こったところなど見たことがなかったため、知らされたときはとても怖かった。しかし、これも海外に来たからこそ体験できるものだとみんなで話して、貴重な体験のひとつだと感じた。ストライキはそこまで大規模にならず、お昼からは首都カトマンズで多くの世界遺産を見ることができた。仏教、ヒンズー教のお寺を見学したが、世界遺産のお寺では、宗教の枠を超えた日本では体験できないようなたくさんのことを体験し、様々な考えを学ぶことができた。

ネパールでは楽しいことがたくさんあったが、行く所々で2016年に起きた地震の被害が垣間見えた。観光をしている時も、地震で崩れたため見ることができない場所や、車に乗っている時も壊れたダムが見えたりした。ラムチェ村に向かっている時に立ち寄った渓谷には集落があったのに地震で崖が崩れ、全部岩の下敷きになってしまったという場所だった。150人以上が亡くなってまだ見つかってない人も大勢いると聞いた時はどうしたらよいかわからなかった。

実際に現地に来てみないとわからないことがたくさんあり、自分たちがどれだけ無知で無力か思い知らされた。そしてまだまだネパールには支援が必要だということを知った。ネパールだけではない、他にも支援が必要な国はたくさんあるだろう。こんな数日間ネパールに行っただけの10代のただの学生に何ができるのだろうと最初は思った。しかし、私の周りの小さなところからでも私が実際にネパールで見たこと、感じたことを伝えることはできると考えた。早速家族に伝えた。友達にも伝えた。もっと伝えたい。そう考えだしたら止まらなくなった。あと1年しかない学生生活の中でできることは何かと考えた結果、ゼミ活動でネパールの義援金を集めることだった。今後、ミナさんが地元で経営している工場で作られている雑貨やネパールならではのものを日本で売って売り上げを義援金にしようと考えている。ミナさんの工場は地震で家族を亡くした女性を雇用して、その人たちに居場所と仕事の機会を与えているそうだ。このようなことも、それを支援する活動をしている人がいることも少しでも多くの人に知ってもらいたい。今回のボランティア活動を通して、楽しい思い出と新しい目標を作り出すことができた。

栄養研究サークル

生活科学学科 食物栄養専攻 2回生　大友 春奈

大学連携センターFスクエア1st Anniversary（4月15日）、みどりと花の県民運動大会（6月4日）、食育フェスティバル（10月22日）にて栄養研究サークル伝統のパウンドケーキの販売を行いました。また、昨年に引き続き、福井市のベジガールズとして、福井市健康フェアで野菜を使ったレシピ集を配布するなどして、野菜から食べる『ベジファースト運動』の推進に取り組みました。

たくさんのパウンドケーキを焼くことは大変でしたが、私たちが作ったものを多くの方に買っていただき、美味しいと笑顔になってもらえることがやりがいとなり、頑張ることができました。はじめのうちは時間がかかっていたパウンドケーキ作りも、繰り返し行ううちに効率よく短時間で仕上げることが出来るようになりました。

パウンドケーキの販売やレシピ集の配布を通して、多くの方と関わり、人との接し方や、人へ物事を伝えることの楽しさ、また伝えることができた時の喜びを知りました。将来、栄養士になる上で、栄養指導を行うなど、人と関わることは必ず必要となります。どのように人と接したら良いか、どのように伝えると相手は理解しやすいかなど、サークル活動で学んだことを、栄養士として働く中でも実践していきたいと思います。

子育て応援団「すこやかふくい2017」

幼児教育学科　1回生　石川 ゆいか

私は、産業会館で行われた「すこやかふくい2017」のボランティアとして、会場全体の放送をしました。主な活動内容は、ステージ活動の案内やアンケートへの参加の呼びかけ、車の移動のお願いなどでした。

この活動を通して学んだことは、単に原稿を読むだけでなく、お客様に伝えたい、聞いてほしいという想いを込めて読むことが大切であるということです。私は、このような活動を経験することが初めてだったので、「間違えたらどうしよう」「噛んでしまったらどうしよう」ととても緊張していました。しかし、放送担当のスタッフの方に「普段、お友達に大切なことを話す時のように、特に伝えたい言葉、例えば場所や時間などをお客様が聞き取りやすいようにゆっくりはっきり話せばいいんだよ」とアドバイスを頂き、何度も繰り返し行うことで、リラックスして取り組むことができました。

私の放送は、福井のなまりが強かったけれど聞き取りやすくとても良かった、と褒めて頂けたので、将来、保育者となり子どもたちや保護者の前で話しをする際にこの経験を活かしていきたいです。貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました。

ハーモニーホールふくい　ふるさと子どもコンサート

すてきなおねえさんの楽しい童謡とわらべうた
～手遊びとともに～

日　時　平成30年1月30日（火）午前11時　開演
場　所　福井県立音楽堂ハーモニーホールふくい大ホール
演　奏　仁愛女子短期大学幼児教育学科
　　音楽表現選択1回生（28名）
参加者　福井市・坂井市・鯖江市・越前市・大野市・勝山市から、22園・5個人（乳幼児とその保護者の方）・658名が参加。（当初予定は28園・5個人・757名であったがインフルエンザや雪の影響により減少した）

●幼児教育学科1回生　秦　彩音

私はわらべうたコーナーの司会を担当しました。一つのわらべうたを使って様々な動物を登場させました。大きな舞台で司会をすることはないのでとても緊張しましたが、子どもたちも楽しそうに真似をして遊んでくれたので嬉しかったです。また「おもちゃのチャチャチャ」など子ども向けの歌も発表しました。自分たちで考えた振付けは練習時間があまりなかったので少々不安でしたが、舞台に立った皆と団結して楽しく発表することが出来たので良かったです！演奏後の楽器体験コーナーでは子どもたちの可愛い反応にとても勉強になりました。